

活動が、集落の再発見と資源の活用を促す

◎農業体験から資源活用へ

田植え体験や稲刈り体験 ⇒ 田んぼの生き物調査
⇒ ビオトープづくり ⇒ 周辺の環境整備 ⇒ 耕作
放棄地対策 ⇒ 集落環境診断 ⇒ 獣害対策

◎農業体験から生活文化体験へ

⇒ 笹団子・案山子づくり体験 ⇒ 柿酢づくり体験
⇒ 正月飾りづくり体験
⇒ 田んぼ茶会 ⇒ 水辺のカフェ

5月下旬に田植え体験
9月下旬には稲刈り体験が行われる



家庭で作ることが減った笹団子 案山子づくり体験と一緒にいった



耕作放棄となっていた山間の田んぼ 「ビオトープ」に生まれ変わった



ビオトープに行く途中の耕作放棄地 環境整備で、畑に復元した

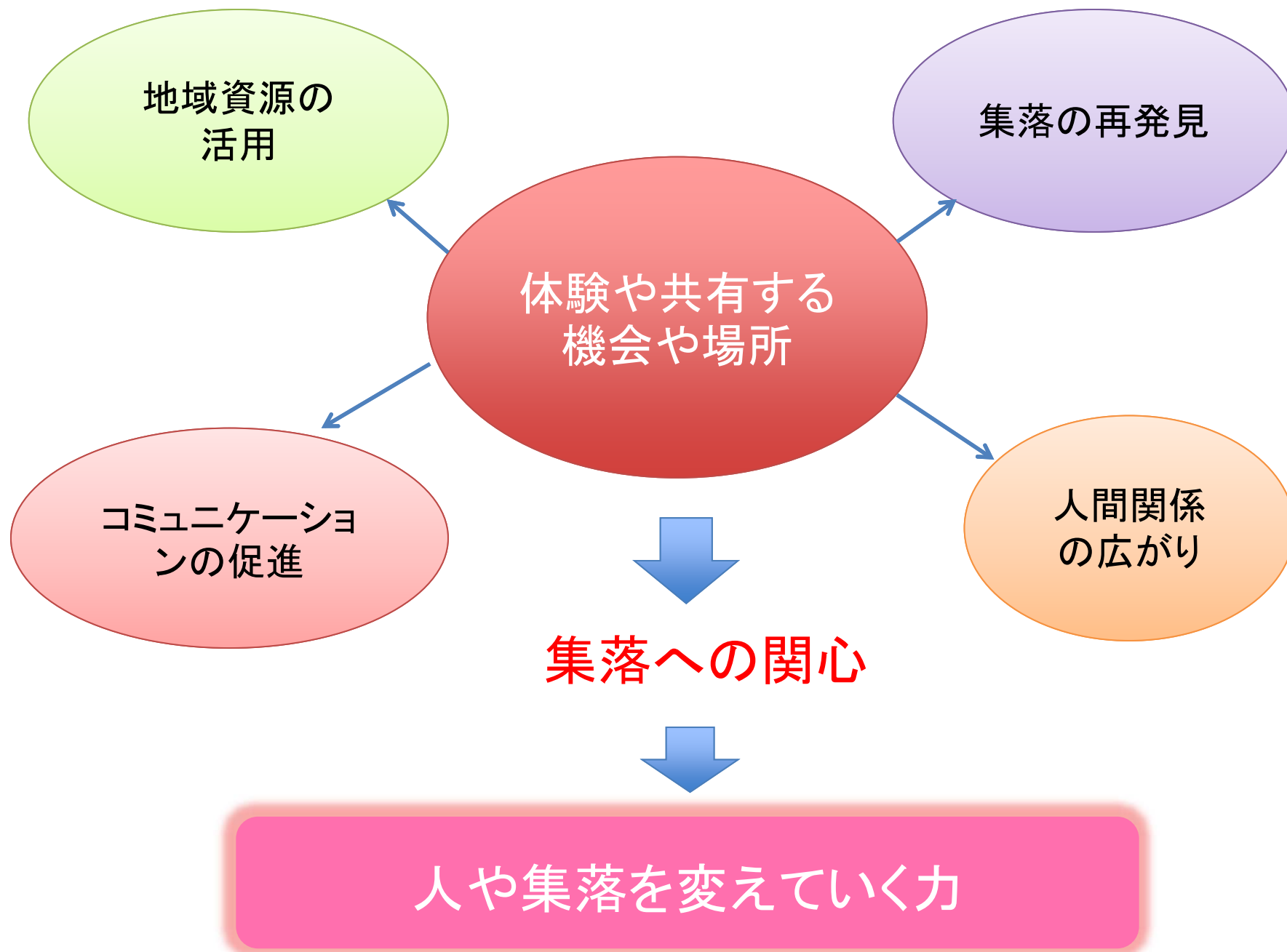


鳥獣のエサとなっている放置柿 柿酢作りで食文化に活用した



住民が作った手造り公園、「水辺のオアシス」 イベントや休息場所で使われている





集落環境診断

～ 獣の視点で地域を知る ～

2016.11.6

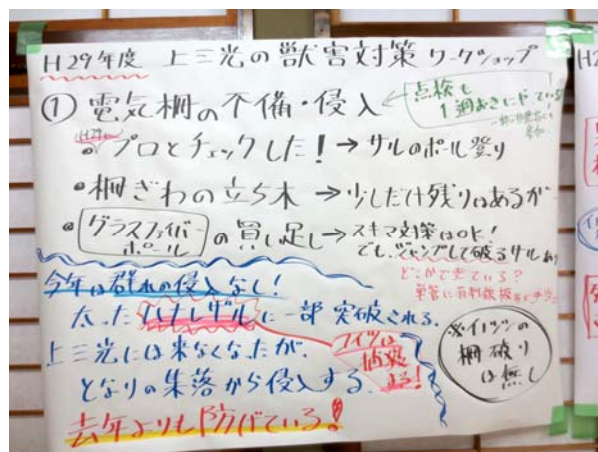
集落への関心が獣害対策を後押しした

住民参加で集落の環境を調査する

集落環境診断のポイント

- (1) どれだけ多くの住民が参加するか
- (2) 住民自らが、集落の現状を確認する
- (3) 住民自らが、課題と対策を見つける





一緒に体験し、情報を共有し、対策を立てる

調べたことを地図に描き、分析すると課題が見えてくる



集落環境診断による合意形成

(1) 集落環境の改善

荒廃した里山や耕作放棄地など集落環境対策

(2) 餌となる誘引物の撤去

残さや果樹など誘引物など処置と対策

(3) 電気柵の不備の解消

電気柵の正しい張り方と有効な管理体制の構築

(4) イノシシ対策

サル以外、増加するイノシシの脅威に対する対策

自治会活動として取組みを強化できた

人

被害防除

電気柵などで農作物を
守って被害を減らす
直接的防除

課題

- ★電気柵の不備と侵入対策
- ★イノシシ対策

取組み

- 自治会で獣害対策費を予算化
- 電気柵の計画的な維持管理

⇒ 5月～11月にかけてチーム編成で定期的な維持管理



10人単位5チームで管理

